

コロナ禍で検診の受診者・がん登録数が減少！

新型コロナウイルス感染症の発生から2年が経ちましたが、皆さん、検診は受けていますか。今、コロナ禍による検診の受診控えが問題になっていますが、コロナの影響か本町も例年に比べ、がん検診の受診者数は減少しています。

日本対がん協会は、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると受診者は1割減少しており、検診でのがん発見率から推定すると、発見されていたはずの600件あまりのがんが見つけられなかった可能性がある」と発表しました。また国立がん研究センターも、2020年の全国の新規がん登録者数が前年度より6万件減少したと発表しました。これを受け、国はがん患者数そのものが減少したのではなく、新型コロナウイルス感染症に伴う影響で早期がんを中心にがんの発見数が減少した可能性が高

いどの考えを示し、今後進化した状態で発見されることを懸念しています。

がん細胞は、1cmになるまで約10〜20年かかると言われています。しかし、1cmから2cmになるには、たった2年しかかかりません。早期がんは、2cmまでを指すため、検診を1〜2年に1回受けなければ、早期に発見することができないのです。2人に1人が生涯に1度はがんになると言われ、誰でもがんになる可能性があります。コロナ禍で受診を自粛している間も、がんは静かに進行しており、コロナの収束を待ってはくれません。マスクの着用・手洗い・消毒がコロナ対策として有効であるように、がんは定期的な検診と早期発見・早期治療が有効です。医療機関や検診会場は、換気や消毒等感染対策を実施していますので、安心して受診しましょう。

あなたの努力次第で「がんになる確率」が半減！

3人に1人ががんで亡くなる時代です。これだけ聞くと怖くなってしまいますが、「がんⅡ死」ではありません。検診と生活習慣を見直すことで多くのがんは予防できることが分かっているからです。正しい生活習慣「禁煙・節酒・「食生活」・「身体活動」・「適正体重の維持」を実践・継続することでがんになる確率は半減すると言われています。身近な病気だからこそ、予防が大切です。がんを完全に予防することはできませんが、私たちの心がけ次第でリスクを下げることはできます。

春は新しいことを始めるよい季節です。気持ちを新たに、自分の健康を守る第1歩として、検診と生活習慣の改善から始めてみませんか。

「ちよび塩クイズ」

- 春の暖かい日に外で食べるごはんは格別です。食塩が一番多いものはどれでしょう。
- ①おにぎり（エビマヨ）1個
 - ②ミックスサンドイッチ1個
 - ③クリームパン1個
- （答えは15ページに掲載）

柳井警察署だより

☎0820 (72) 0110
☎0820 (23) 0110

自転車を正しく安全に利用しよう！

自転車は、運転免許証などの特別な免許が必要なく、大人から子供まで気軽に利用することができる乗り物です。しかし、自転車は車両であり「車」の仲間ですので、自転車を利用する際は、そのことをしっかりと理解して、

- 原則として車道の左側を通行すること
- 例外として歩道を通行する際は、車道寄りを徐行すること
- 飲酒運転・二人乗り・並進など危険な運転をしないこと
- 夜間に運転する際はライトを点灯すること
- 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認を行うこと

などの基本的な交通ルールをしっかりと守りましょう。

また、自転車乗車中の交通死亡事故では、頭部損傷が致命傷となる事故が発生しています。県内の過去5年間の自転車乗車中の交通死亡事故をみても、ほとんどの方がヘルメット非着用という状況でした。

自分の身を守るためにも、大人も子供も、自転車を利用するすべての方が、ヘルメットを着用しましょう。

ヘルメットをかぶって、命を守ろう！
小さな心がけが、大きな事故を防ぐ！

